

口頭発表概要一覧【発表者・指定質問者用】

分科会名	会場	発表者					指定質問者			
		発表順	発表時間	発表題目	発表概要	代表者名	大学	指定質問者 在席責任時間	指定質問者 (代表者氏名)	指定質問者 大学
第1分科会 (社会福祉・教育)	2階 第1会議室	1	10:00-10:30	迫る！生活保障の闇 ～セーフティネット改革～	日本には社会保障の代表的なものとして3つのセーフティネットが存在し、様々なリスクに対応してそのネットは広げられている。しかし現在、生活保護受給世帯の増加などセーフティネットの機能が十分に発揮できておらず、またネットに引っかからずにすり抜けていく人、そのネット自体から排除される人が多く存在している。何のためのセーフティネットであるのか、どんな機能を果たすべきなのか。今の社会に合ったセーフティネットへの改革を目指す。	白井 淳平	龍谷大学	10:00-10:30	浜安 裕真	佛教大学
		2	10:30-11:00	介護ロボット産業の政策的取り組みの課題と今後の方向性 —経済分析によって得られる新たな視座—	現在の日本社会は高齢社会に突入し、介護現場では介護者の不足や、介護の負担などの様々な問題に直面している。その問題解決として注目されているのが介護ロボットである。介護ロボット事業は政府の成長戦略として実用化が期待されており、介護現場の問題解決だけでなく日本の新産業としても注目されている。しかし、介護ロボットには制度的課題が散見される。本研究では経済的視点から課題を整理し、説明する。	安田 あずさ	立命館大学	10:30-11:00	杉澤 章王	京都文教大学
		3	11:10-11:40	より良い保育環境を目指して～昼間里親 制度の課題と可能性～	私たちは、フランスの認定保育ワーカー制度をヒントに京都市の昼間里親制度を改革し、家庭保育を拡充することを提案する。現在、就労している女性は、保育所等の集団保育施設を利用しているが、それだけでは、仕事と育児の両立の問題は解消されない。もっと柔軟な保育サービスが必要である。京都には昼間里親制度が存在しているが、広く活用されているとは思えない。主婦の人材活用なども含め、多面的な制度改変を提案する。	浦田 健斗	京都産業大学	11:10-11:40	平松 瞳	京都産業大学
		4	11:40-12:10	いじめ問題における教師の適切な関わり方について	この発表の目的は、昨今問題になっている学校におけるいじめ問題に対する教師の適切な関わり方を明らかにすることである。	浜安 裕真	佛教大学	11:40-12:10	白井 淳平	龍谷大学
		5	13:10-13:40	ニート対策としての大学のキャリア教育	大学では2011年からキャリア教育が義務化されている。しかし大卒未就業者の「大卒ニート」の数は減少しているとは言えない。言い換えれば、学生の自立のためのキャリア教育と、多数の大卒ニートが生み出されている現状との間に矛盾が存在している。その矛盾への対案としての大学のキャリア教育の在り方を検討する。	杉澤 章王	京都文教大学	13:10-13:40	安田 あずさ	立命館大学
		6	13:40-14:10	インターンシップにおける学生の意識や 実態と今後の課題	現在日本のインターンシップ制度には学生側もインターンシップと称して無償労働や低賃金労働まがいのことをさせられ、企業側もインターンシップ導入のためには手間がかかり手間をかけただけの利益を得ることができおらずインターンシップ制度がうまく機能していない現状がある。	平松 瞳	京都産業大学	13:40-14:10	浦田 健斗	京都産業大学

口頭発表概要一覧【発表者・指定質問者用】

分科会名	会場	発表者					指定質問者			
		発表順	発表時間	発表題目	発表概要	代表者名	大学	指定質問者 在席責任時間	指定質問者 (代表者氏名)	指定質問者 大学
第2分科会 (経済・経営・その他)	2階 第2会議室	1	10:00-10:30	日本のフェアトレード推進の政策課題 ～消費者教育の可能性について～	日本ではフェアトレード商品の普及度は近年、上昇傾向にあるが欧米諸国と比較した場合に低い。フェアトレードの考え方の発祥は欧州にある。歴史・文化的背景の違いによって日本の普及度が低いことは当然であるが、また同時に消費者教育の中で語られてこなかったことも原因にあると考えられる。従来の消費者教育は悪徳商法などネガティブなものが多かったが成熟な消費者をつくるポジティブな消費者教育推進の可能性を探る。	田村 太昌	京都産業大学	10:00-10:30	北野 翔大	立命館大学
		2	10:30-11:00	ホンダジェット —ジェット機市場参入の経済効果と企業家精神—	近年、自動車メーカーのホンダは、小型ジェット機業界に参入することで注目を集めている。ホンダは1986年から小型ジェット機の研究、開発を始め、莫大なコストをも投入し、2014年に発売予定である。異分野への進出には、創業者の本田宗一郎の夢であったためと一般的に説明されている。しかし、それではホンダはが小型ジェット機業界に参入した理由を合理的に説明できていない。そこで私たちは経済学的観点から分析し、合理的に説明する。	榎田 創水	立命館大学	10:30-11:00	熊本 美紀	佛教大学
		3	11:10-11:40	認可保育所への株式会社参入の可能性 の是非	我々は、京都市の認可保育所において株式会社参入が是か非かの政策議論を行う。近年、京都市では保育所への入所のニーズが高まり、保育所の整備が積極的に進められている。しかし、未だ株式会社立の認可保育所は存在していない。2013年に、厚生労働省から認可保育所の株式会社参入を促進する通達がなされた。横浜市では、以前より積極的に認可保育所の株式会社参入を実施し、待機児童を減少させている現状が認められている。	佐野 佑真	京都産業大学	11:10-11:40	渡邊 建一	佛教大学
		4	11:40-12:10	中古住宅の流通活性化に向けた研究	私たちは、現在日本において世帯数が増加している一方で、それ以上に住宅ストック数が増加していることから、住宅ストック数の増加による住宅の過剰供給に問題意識を持ち、その解決策の1つとして中古住宅の流通促進策に焦点を当てた。本研究では、効率的に住宅ストックを流通させる方法を研究し、中古住宅のうち築21年以上の住宅を研究対象として、年々増加傾向にある住宅ストックの解消方法を検証する。	北野 翔大	立命館大学	11:40-12:10	田村 太昌	京都産業大学
		5	13:10-13:40	セクシュアルマイノリティの暮らしやすい 社会	この発表の目的は、セクシュアルマイノリティという問題について、当事者に対する調査から提言を行うことにある。近年、セクシュアルマイノリティに対する関心が高まっているが、不十分なものに過ぎない。そこで、セクシュアルマイノリティの現状を把握し、問題点を整理することによって理解を求め、少しでも同性愛者やGIDの人々の住みやすい環境や社会づくりのために何が必要であるか提示したい。	熊本 美紀	佛教大学	13:10-13:40	榎田 創水	立命館大学
		6	13:40-14:10	ルネ・ジラル「欲望の模倣」にみるいじめ の現状	この発表の目的はルネ・ジラルの「欲望の模倣」という理論から、いじめの現状について考察を加える事にある。いじめ問題は1980年代から浮上し、2006年に福岡、2011年には大津での自殺事件と記憶にも新しい。今日まで様々な形でいじめ問題は議論されてきたが、しかし、未だ欠落した視点があるようにも思われる。そこで「欲望の模倣」理論を手がかりに、教師へのインタビュー調査を行い考察した。	渡邊 建一	佛教大学	13:40-14:10	佐野 佑真	京都産業大学

口頭発表概要一覧【発表者・指定質問者用】

分科会名	会場	発表者					指定質問者			
		発表順	発表時間	発表題目	発表概要	代表者名	大学	指定質問者 在席責任時間	指定質問者 (代表者氏名)	指定質問者 大学
第3分科会 (産業・観光)	2階 第3会議室	1	10:00-10:30	植物工場普及における我が国の政策の 在り方とその方向性 —国際競争力の確立に向けて—	近年、企業の農業参入が進むと同時に植物工場が増加している。植物工場では天候に左右されず、安定的に野菜を供給することができ、農薬や化学肥料の使用量を抑え、高い品質を保つことができる。また、土耕栽培と比べ短期間で栽培することが可能である。そして、東日本大震災で土壌被害を受けた地域でも植物工場であれば、野菜を栽培することができるという点で注目を集めている。そこで植物工場に着目し、研究を進める。	藤井 望美	立命館大学	10:00-10:30	武市 明莉	立命館大学
		2	10:30-11:00	京都府における都市農業政策	農業は農産物生産という機能以外の多面的な機能を持つ。この多面的機能は農家だけでなく住民全体に大きな利益を与えている。しかし、近年農地は著しく減少しており将来的に機能が十分に果たされなくなる事が予想される。この問題に対し多面的機能を維持していくため京都府の都市農業政策を考える。	藤野 智大	同志社大学	10:30-11:00	酒井 峻	京都府立大学
		3	11:10-11:40	都市のスマート化と電力システム改革の 課題の検証 —持続可能なCEMSの構築と事業化—	東日本大震災による福島原発事故によって大規模集中型の電力供給方式を疑問視する意見が聞かれるようになった。その代替案として注目されているのが小規模分散型の電力供給網である。双方に一長一短があり一概にどちらが優れているか答えるのは困難である。そこで本研究では、現在の日本の電力システムの課題と現状を明確化した上でどのようなエネルギー政策が有用なのかを費用・安定性・環境性・効率性といった観点から検証する。	松本 薫	立命館大学	11:10-11:40	織田 翔子	京都橘大学
		4	11:40-12:10	域学連携を通して考えるグリーンandグ リーン	私たちは洲本市に1か月滞在し、総務省の域学連携事業を通して、地域の人々と共に低炭素漁業、有機農業、里山保全、限界集落の4つのプロジェクトに取り組んでいます。エネルギーの地産地消を行い、従来からのグリーンツーリズムに合わせて再生可能エネルギーを資源とする新しいグリーンツーリズムを提唱します。加えて、域学連携を通して生まれた新たな可能性や学んだことを発表し、循環する新しいモデルづくりを提案します。	平井 貴也	龍谷大学	11:40-12:10	藤井 望美	立命館大学
		5	13:10-13:40	京都MICEの誘致に向けて —香港の事例より—	京都市は観光客の増加を狙うため、MICE需要を取り込むべきである。MICEとはMeeting 会議・企業のミーティング、Incentive 報奨・研修旅行、Convention 国際団体・学会・協会などの国際会議、Exhibition 文化・スポーツイベント・展示市・見本市の略称であり、ひとつの確立されたビジネス領域である。私たちはMICE先進国である香港を今年9月に訪問し、関連政府団体にヒアリングを行った。香港によるMICE誘致への取り組みを受けて、京都MICEの誘致に向けて提言を行う。	武市 明莉	立命館大学	13:10-13:40	藤野 智大	同志社大学
		6	13:40-14:10	動画と観光政策 —伝えたい京丹後の魅力—	地方自治体における観光振興施策の内、情報発信の改善によって入込客数の増加を期待するという取り組みについて、京丹後市をフィールドとして行なっている調査と動画の制作・提供について報告し、動画を発表する。	酒井 峻	京都府立大学	13:40-14:10	松本 薫	立命館大学
		7	14:10-14:40	コンパクトシティと市民のための交通政策	近年、エコロジカルな視点や都市経営上から、無用な都市地域の拡大を抑える都市づくりとしてコンパクトシティが注目されている。これは単に都市空間を圧縮するだけでなく、空間としての地区毎の課題解決や交通環境のあり方が問われることになる。本研究では、コンパクトシティ構想の中における市民にとって最重要課題である交通政策のあり方や可能性を明らかにする。	織田 翔子	京都橘大学	14:10-14:40	平井 貴也	龍谷大学

口頭発表概要一覧【発表者・指定質問者用】

分科会名	会場	発表者					指定質問者			
		発表順	発表時間	発表題目	発表概要	代表者名	大学	指定質問者 在席責任時間	指定質問者 (代表者氏名)	指定質問者 大学
第4分科会 (政治・行政・住宅)	4階 第2講義室	1	10:00-10:30	朝鮮学校問題の現状と課題 ～在日コリアンの暮らしやすい社会を目指して～	この発表の目的は、朝鮮学校が高校無償化から除外されている問題について、歴史的背景を踏まえ当事者に対するインタビュー調査から解決方法を探ることにある。日本政府が批准した「国際諸法規が保障する教育」によれば、民族アイデンティティを保持するための民族教育は必要不可欠である。では民族教育を行う場である朝鮮学校はなぜ除外されているのであろうか。様々な見解をまとめ、当事者にとってより良い解決方法を提示したい。	梶本 菜月	佛教大学	10:00-10:30	江成 穰	立命館大学
		2	10:30-11:00	日本の地域間所得格差 —その要因と政策対応—	日本の抱える問題である地域間の所得格差において、その要因を突き止め、要因に対する政策対応を考察していく。	村中 俊哉	京都産業大学	10:30-11:00	山方 直哉	京都文教大学
		3	11:10-11:40	2010年尖閣諸島沖漁船衝突事件をめぐる政策決定過程 —揺れる民主党政権と対中外交—	2010年に発生した尖閣諸島沖漁船衝突事件はその後の日中関係に多大なる影響を与えた。その危機的な状況への対応を行ったのは菅直人首相(当時)率いる民主党政権であったが、彼らの政策決定から政策実施に関しては一貫性がなかった。また、自民党から民主党への政権交代の影響によって、政策決定過程や官僚制に大きな変容を与えたと考えられる。以上のことから本研究は危機時の民主党政権における政策決定過程の分析を中心に行う。	本田 純一	立命館大学	11:10-11:40	中川 章一	立命館大学
		4	11:40-12:10	定住自立圏からの広域的な地方自治への考察 —長野県南信州地域から—	日本の地方自治体における少子高齢化の更なる進行、従来からの過疎地域の問題などによって単独の地方自治体による行政活動が行き詰まり、疲弊するといった現状の打破を可能とする、全国的に応用可能な地方の自治体間連携に関する政策提言	江成 穰	立命館大学	11:40-12:10	梶本 菜月	佛教大学
		5	13:10-13:40	歳出が京都市債に及ぼす影響 -公共事業と公営企業に着目した財政分析	昨年度の発表では、市町村間の比較を用いて京都市が抱える財政問題を抽出した。今大会では、京都市の歳出行動が財政問題と深く結びついているのではないかという疑問を抱き、とりわけ公共事業と公営企業の観点から市債膨張の要因を分析する。その結果に基づき、一般会計と公営企業会計を含めた一体的な財政健全化に向けた道筋を示す。	山方 直哉	京都文教大学	13:10-13:40	村中 俊哉	京都産業大学
		6	13:40-14:10	関西圏におけるシェア居住の研究 —シェア居住の入居理由、及びシェア居住の物件に関する実態—	東京などの都心部ではシェア居住が増加していることからシェア居住の研究が進んでいるが、関西圏を対象にした研究があまり見られない。そこで本研究では、筆者らの出身である関西圏を研究フィールドとして、シェアハウスの選択理由、及び入居後のトラブルについて実態を調査し、明らかにする。本研究によって、関西圏と関東との違い、また関西圏の特有について明らかにすることで社会的意義があると考えられる。	中川 章一	立命館大学	13:40-14:10	本田 純一	立命館大学

口頭発表概要一覧【発表者・指定質問者用】

分科会名	会場	発表者						指定質問者		
		発表順	発表時間	発表題目	発表概要	代表者名	大学	指定質問者 在席責任時間	指定質問者 (代表者氏名)	指定質問者 大学
第5分科会 (地域活性化)	4階 第3講義室	1	10:00-10:30	商店街の活性化と地域コミュニティの回復へ	現在、様々な商店街においてシャッター街化が進み、地域のコミュニティ再形成に向けた様々な取組が行われている。自身の関わっている龍安寺商店街の取り組みに触れ、商店街活性化に向けた課題と今後の提案を発表する	森 達郎	立命館大学	10:00-10:30	下村 景亮	龍谷大学
		2	10:30-11:00	学生視点から提案する商学連携の展望	高齢化やモータリゼーションの進行などで衰退が進む近隣型商店街において、学生がその事業に継続的に関わることの可能性を考える。導入として学生が商店街に関わることの有用性を証明し、その後全国各地の学生による商店街活性化やコミュニティデザインの事例をいくつかピックアップし検証する。それら事例の課題や不足点をふまえたうえで、より学生と商店街が効果的に関わるプランを最終的な提案として結論づける。	永末 晃規	龍谷大学	10:30-11:00	小松 千織	京都橘大学
		3	11:10-11:40	商工会を中心とした情報共有による地域活性化策	商工会が設立されたのは1960年。商工会は今日、多くの問題を抱え解決を迫られている。その1つに地域のほとんどを占める地場企業と商店の衰退である。それは雇用の減少、引いては地域の人口構造に問題を投げかけている。商工会が、地場企業と商店との共同営業活動及び地場の情報が自治会と住民へ与える影響を研究し自治会を含む情報の共有とマーケティングの手法を使い地域の活性化の政策を提言する。	大堀 翔平	京都学園大学	11:10-11:40	森 達郎	立命館大学
		4	11:40-12:10	「ご当地キャラ」による地域振興	いわゆる「ご当地キャラ」が注目されているなか、京都府下にもたくさんの「ご当地キャラ」が生み出されている。本研究では、そのうち宇治市と亀岡市の「ご当地キャラ」に注目し、これが両市の地域活性化にどのように貢献しているか、またどのような可能性を秘めているか検証する。	齋藤 大亮	佛教大学	11:40-12:10	永末 晃規	龍谷大学
		5	13:10-13:40	生活観光エリアの実現に向けて—ならまち町家の保全と活用—	私たち土山ゼミナールでは地域振興や観光政策について調査を行った。その中で、奈良県の地域資源の活用方法や空き家の活用について興味を持った。そして、実際に奈良県北部を中心に調査を行い、その調査に基づいて奈良の各地にある地域資源の活かし方、空き家の有効な利用方法、景観の保全政策などを考察した。奈良を活気にあふれ、魅力のある地域にしていくために提案していく。	下村 景亮	龍谷大学	13:10-13:40	大堀 翔平	京都学園大学
		6	13:40-14:10	森林資源の利用から見る地域活性化	近年、全国的に土砂崩れや獣害などが多発している。これは、林業の衰退により森林の手入れが行き届いていないことが原因と考えられる。日本人の生活と森林とは切り離せない存在であり、森林資源を活用することによって中山間地域の活性化や災害を防ぐことが可能であると考えられる。森林資源を活かした新ビジネス、六次産業化が最も有効であるとの仮説をもとに、高知県馬路村の「エコアス馬路村」の事例を検討する。	小松 千織	京都橘大学	13:40-14:10	齋藤 大亮	佛教大学

口頭発表概要一覧【発表者・指定質問者用】

分科会名	会場	発表者						指定質問者		
		発表順	発表時間	発表題目	発表概要	代表者名	大学	指定質問者 在席責任時間	指定質問者 (代表者氏名)	指定質問者 大学
第6分科会 (まちづくり①)	4階 第4講義室	1	10:00-10:30	京都市の景観 ～高層建築物が与える影響について～	京都市では屋外広告物の色や大きさ、建築物の高さ、歴史的建造物の保護など様々な規制がかけられている。私たちは高層建築物の増減が景観に与える影響を考察した結果から京都市の行っている規制が京都の景観を守るために妥当であるかを判断する。	石沢 直美	京都文教大学	10:00-10:30	森 達史	同志社大学
		2	10:30-11:00	赤れんがノミクス —舞鶴版赤れんがトレイルを成功させる 3本の矢—	舞鶴を赤レンガを使って活気のあるところにするために考えたこと、研究したことを発表する。	西村 豪志	京都府立大学	10:30-11:00	橋村 宥輝	関西大学
		3	11:10-11:40	『地域まるごと写ガール隊 ～京都丹波の地域力向上に向けて～』	京都丹波の魅力を再発見し、それをスマートフォンで写真に収め、Facebookを通じて発信するという活動を行っている写ガール。その活動を報告するとともに成果を発表する。	森 悠	京都府立大学	11:10-11:40	石沢 直美	京都文教大学
		4	11:40-12:10	地域コミュニティ活性化による犯罪予防 —千里ニュータウンをモデルにして—	私たち岡本ゼミは、今まで千里ニュータウンの地域コミュニティについて調査してきました。安心・安全なまちづくりを行うことで地域コミュニティが活性化すると考え、そのためにはまず犯罪予防が必要不可欠であると仮定しました。さらに、犯罪を抑制するためには街の景観が重要なものであると考え今回の政策研究交流大会では景観、コミュニティ、環境の三つの視点から防犯について政策提言します。	藤居 花織	関西大学	11:40-12:10	西村 豪志	京都府立大学
		5	13:10-13:40	地域防災の取り組みから考察するまちづくりと学生の参画	今日の地域防災の現状の把握と課題の分析を行い、防災という地域の普段からのコミュニケーションと信頼関係が大前提となる取り組みを土台に、自ら実施した社会実験の結果や、これまでのまちづくりの経験を踏まえながら、まちづくりへの多様なアプローチへの発展と、そこに学生の参画することによる可能性について考察する。	森 達史	同志社大学	13:10-13:40	島崎 梨奈 (森 悠)	京都府立大学
		6	13:40-14:10	みんなでつなげる安心・安全な地域コミュニティ —CAUSEモデルに基づく減災の取り組み—	私たちはいつ起こるか分からない災害の被害を減らすために、地域コミュニティによって、日常生活において身近なところからできる対策を住民に発信し、減災対策の意識づけを行う必要があると考える。今回の発表では、地域コミュニティが住民の意識の向上や、減災の知識を発信していく上で有効な方法を明らかにしていく。	橋村 宥輝	関西大学	13:40-14:10	藤居 花織	関西大学

口頭発表概要一覧【発表者・指定質問者用】

分科会名	会場	発表者						指定質問者		
		発表順	発表時間	発表題目	発表概要	代表者名	大学	指定質問者 在席責任時間	指定質問者 (代表者氏名)	指定質問者 大学
第7分科会 (まちづくり②)	5階 2-4演習室	1	10:00-10:30	NPO支援政策のあり方を考える ～「新しい公共支援事業」の検証から～	NPOの役割について	中原 宏治	龍谷大学	10:00-10:30	今中 昌彦	龍谷大学
		2	10:30-11:00	日替わりシェフレストラン「かめおか四季菜」は、どこへ向かうのか	京都府亀岡市には、毎日シェフが変わるという営業形態の日替わりシェフレストラン「かめおか四季菜」がある。このレストランは、地元でとれた食材を使用するかたちで地産地消を推進するために、また消費者と農家をつなぐために立ち上げられたものである。一スタッフとして参与観察を行った立場から見えてきたレストランの現状、また関係者へのインタビューを通じて見えてきた課題と可能性などについて発表したい。	松木 優美	佛教大学	10:30-11:00	藤原 悠	龍谷大学
		3	11:10-11:40	京都府におけるサービス付き高齢者向け住宅の調査	本研究では空き家の高齢者向け住宅への利用についての検証を行う。空き家を高齢者向け住宅へと二次利用することの有効性を検証し、また既存の政策の課題を明らかにすることが本研究の目的である。京都市では空き家が増加傾向にあり、また高齢者向け住宅が少なく高齢者向け住宅の需要が高いと考えられる。よって空き家を高齢者向け住宅として利用することで、空き家のストック数を減らすことができるのではないかと考えられる。	桑原 佳佑	立命館大学	11:10-11:40	大田 雅之	京都橘大学
		4	11:40-12:10	地域活性化に果たす地域おこし協力隊の役割	隊員の方に取材しながら地域の活性化に果たす地域おこし協力隊の役割を考え、またその活動を前進させるための提言をまとめます。	軽尾 亮太郎	京都府立大学	11:40-12:10	中原 宏治	龍谷大学
		5	13:10-13:40	住みよいまちを目指して ～市民がつくる「まちの縁側」～	京都市の「はばたけ未来へ！京プラン」で小学校区内に1つ以上まちの縁側を設置し合計300以上設置するという政策があるがまちの縁側は本当に効果があるのかや必要性があるのかという疑問や質問に独自の研究データやアンケートを用いて議論し、まちの縁側の必要性やよりよくするための方法を提案する。	今中 昌彦	龍谷大学	13:10-13:40	松木 優美	佛教大学
		6	13:40-14:10	市民主体のごみ政策と循環型社会との関係性	私たちは、日本の循環型社会形成に焦点を当て、日本におけるごみ問題の現状を把握し、現代社会のライフスタイルの課題を挙げる。その上で、日本の社会構造を循環型へ変容できるごみ政策を提案する。その際に、地方自治体における、市民と協働で行われたごみ政策を挙げて、循環型社会形成における市民参加の可能性を示唆していく	藤原 悠	龍谷大学	13:40-14:10	福井 勇翔 (桑原 佳佑)	立命館大学
		7	14:10-14:40	山科の灯りイベント「陶灯路」の8年を追って	京都山科にある清水焼団地から生産されている陶器と蠟燭を使う灯りイベント「陶灯路」は約10年前から行われてきた。始めは、大学と生産団地だけで始まったイベントも今や行政や民間団体、経済同友会まで参加する大規模イベントになっている。その中でこのイベントが10年の間にどこまで地域の貢献でき活性化させてきたかを分析し、これからのまちづくりを考察する。	大田 雅之	京都橘大学	14:10-14:40	軽尾 亮太郎	京都府立大学

口頭発表概要一覧【発表者・指定質問者用】

分科会名	会場	発表者						指定質問者		
		発表順	発表時間	発表題目	発表概要	代表者名	大学	指定質問者 在席責任時間	指定質問者 (代表者氏名)	指定質問者 大学
第8分科会 (院生)	5階 第1講義室	1	10:00-10:30	低炭素交通システムの構築に関する日 中比較研究 —京都市と杭州市のレンタル自転車事業 を事例に	先進国日本の環境モデル都市京都と途上国中国の低炭素モデル都市杭州は、 低炭素社会の構築を共通目標としているので、両者の比較研究は意味あるも の。比較研究を通じて、京都と杭州の経験を生かし、両地方の国際協力が期待 され、今後低炭素社会又は低炭素都市の構築を提案する。	周 靈怡	立命館大学大学院	10:00-10:30	片山 晋太郎	京都大学大学院
		2	10:30-11:00	日本の食糧政策の特徴とTPP参加の不 確定性に関する研究	グローバル化の深刻化に伴って、食糧の安全は人類生存の基盤に関わるだけでなく、 社会の安定、国家主権及び外交政策にまで繋がっている。日本にとって、食糧安全の確保 は重要、且つ困難な課題であると思う。特に冷戦以降、世界の食糧安全問題の深刻化して いて、経済のグローバル化と農産物の貿易自由化に向けて、国内外における複雑な状況 に対応できるように、日本政府は外交政策と食糧安全保障政策を調整し、一定な成果を 上げてきた。だが、国際における食糧需給の激しい矛盾、国内における食糧生産の不足、 食料消費構造の変化、及び国内農産物市場開放の要求などさまざまな要素で、日本は食 糧の自給率が低下により、国外からの輸入に依存しているという苦境から抜け出せなかつ た。取り分け、“3?11”東日本大震災とTPP協定交渉などで、日本の農業発展と食糧の供給 に大きな衝撃を与えた。これらも日本食糧安全保障に対して、逃げられない新たな課題に なった。食糧安全を確保するのは、必ず日本経済の発展、外交政策と国際協力を推進する 戦略的目標の一つになると考えられる。	王 鳳陽	立命館大学大学院	10:30-11:00	人見 嘉之	佛教大学大学院
		3	11:10-11:40	地方自治体における産業立地 —国内小都市への考察—	公共政策分野におけるガバメントからガバナンスへの着目と分析は、90年台終 盤から盛り上がりを見せ始めており、その勢いは未だ留まるところを知らない。 本研究においては、国内の小都市の一分野に対称を絞り、その上で行政、議 会、NPOといったアクターがどのような制度の上で意思決定を行い、どういった 結果を生み出したかを観察する。そして当該事象の分析の後に、規範的な政策 提言までを全般的な内容とする。	神林 拓	同志社大学大学院	11:10-11:40	千葉 有紀子	龍谷大学大学院
		4	11:40-12:10	地方都市におけるまちなか居住の推進 策 —滋賀県長浜市を例にして—	我々は、現在長浜市で推進されている中心市街地活性化計画について発表す ることを考えています。特に同計画で主な事業として挙げられている「まちなか 居住の推進」(空き地、空き家の合理的利用、伝統的な町家の再生事業など)を メインテーマとすることを予定しています。昨今のコンパクトシティに関する議論 や、長浜市役所など現地の方々から伺ったお話も踏まえつつ、発表を行うことを 検討しています。	松川 周作	京都大学大学院	11:40-12:10	林 祥偉	立命館大学大学院
		5	13:10-13:40	滋賀県長浜市の地域ブランド化 ～観光政策としての商品開発の促進～	私たち長浜まちづくり研究会観光資源班は、滋賀県長浜市をフィールドにまちづ くりについて研究しています。当市は、伝統的町並みを活かした観光地として脚 光を浴びている都市です。今回は、地域資源としての歴史?文化を活かした長浜 市の観光政策の現状と課題を明らかにした上で、観光振興が地域にもたらすメ リットとデメリットについて発表します。その上で、まちづくりにおいて観光が果た す役割について提言したいと考えています。	片山 晋太郎	京都大学大学院	13:10-13:40	周 靈怡	立命館大学大学院
		6	13:40-14:10	ある公益法人が抱える課題と解決策の 一考察 ～一般社団法人『京都ボランティア協会』 の事例から～	京都で40年の歴史を有する一般公益法人京都ボランティア協会。様々な変遷を たどりながら市民の根ざした民間ボランティア推進機関として大きな成果を残し てきた。地域のボランティアセンター設置等はその一例である。しかし、阪神大 震災を契機としてNPO法人等の設立が広がり、老舗のボランティア推進機関とし ての存在意義が問われている。そこで京都ボランティア協会が抱える課題を整理 し、解決策の考察を行う。	人見 嘉之	佛教大学大学院	13:40-14:10	王 鳳陽	立命館大学大学院
		7	14:10-14:40	参加者交流型コウノトリツーリズム	豊岡市のコウノトリは、今や豊岡だけにとどまらず、自ら飛来したり導入などで生 息域を広げている。今行われているコウノトリツーリズムを、都市をまたぎ、参加 者とのワークショップも取り入れた形で行う。同時に現在生息する地域の魅力を 再発見する要素も取り入れて、コウノトリファンをその地域のファンとし、その地 域のファンはコウノトリのことをもっと知ることが出来るようにする。参加者間の交 流と自らの気付きも大切にす。	千葉 有紀子	龍谷大学大学院	14:10-14:40	神林 拓	同志社大学大学院
		8	14:50-15:20	先進国と新興国の幸福感及び影響要因 に関する研究 —日中両国国民の生活実感調査を通じ て—	日本の「国民生活に関する世論調査」により、一人当たりGDP(ppp換算)が一 万ドルを超えると「精神的豊かさを重視」という回答が「物質的豊かさを重視」より 上回った。だから、一人当たりGDP(ppp換算)の一ドルを分岐点だと言えるだ ろう。しかし、中国にも同じ現象が行うかどうかを研究し、日中国民の満足度の アンケート調査結果分析し、相違点を発見し、そして、その理由を分析する。	林 祥偉	立命館大学大学院	14:40-15:10	松川 周作	京都大学大学院